

V 試験研究発表題名

平成 30 年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. 野尻昌信、大塚祐一郎、橋田光、楠本倫久、大平辰朗. 木の香り成分を保持したアルコールの開発. 環境研究シンポジウム、16:42MAP-D5
2. MATSUBARA Eri (松原恵理)、OHIRA Tatsuro (大平辰朗). Inhalation of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) wood odor causes psychological relaxation after monotonous work among female participants (スギ材精油の香りが女性被検者で単調作業の心理的ストレスを緩和する). Biomedical Research (Tokyo)、39 (5): 241-249
3. 橋田光、楠本倫久、松井直之、牧野礼、大平辰朗、佐藤愛美 (山形大農)、芦谷竜矢 (山形大農)、伊藤和貴 (愛媛大). クロモジの抽出成分－近縁種における樹種、部位間での含有成分の違い－. 日本木材学会大会研究発表要旨集、69:M15-P-12
4. 楠本倫久、橋田光、松井直之、大平辰朗、中田了五. トドマツ樹皮の抽出成分 (5)－精英樹より得られた精油のクローン間差－. 日本木材学会大会研究発表要旨集、69:M15-P-09
5. 松井直之、橋田光、楠本倫久、大平辰朗. トドマツ樹皮の抽出成分 (6)－減圧水蒸気蒸留による精油採取条件の検討－. 日本木材学会大会研究発表要旨、69:M15-P-11
6. 大平辰朗. 竹のグリーンテクノロジーによる高度利用技術の開発. 木材情報、325:16-20
7. 大平辰朗、松井直之、橋田光、池田努、下川和子、金子俊彦 (日本かおり研究所)、田中雄一 (日本かおり研究所)、小澤洋平 (日本かおり研究所)、福家正志 (大倉工業)、高石佳樹 (大倉工業)、笠岡英司 (大倉工業). 未利用の「竹」を効果的に利用する方法. 森林総合研究所研究成果選集 (平成 30 年版)、36-37
8. 大平辰朗. トドマツ葉精油の空気浄化機能を活かした製品の開発. 森林産業実用化カタログ、2019:31
9. 大平辰朗. 竹の有効成分を活用した総合利用技術の開発. 森林産業実用化カタログ、2019:32
10. 大平辰朗. 合板製造廃液の新規利用法. 森林産業実用化カタログ、2019:32
11. 牧野礼、橋田光、松井直之、大平辰朗. 蒸煮爆砕処理したスギ樹皮タンニンの二酸化窒素除去能. 日本木材学会大会研究発表要旨集、69:M15-P-13
12. 大平辰朗. 抽出成分. 最新木材工業事典 [新版] ((公社) 日本木材加工技術協会、179 頁)、145-146
13. NISHIZONO Tomohiro (西園朋広)、ZUSHI Kotaro (図子光太郎・富山県農林水産総合技術センター森林研究所)、HIROSHIMA Takuya (広嶋卓也・東京大学)、TOYAMA Keisuke (當山啓介・東京大学)、KITAHARA Fumiaki (北原文章)、TERADA Fumiko (寺田文子・元北海道立総合研究機構林業試験場道南支場)、TAKAGI Masahiro (高木正博・宮崎大学)、SAITO Satoshi (齊藤哲). Latitudinal variation in radial growth phenology of *Cryptomeria japonica* D. Don trees in Japan. (日本のスギにおける肥大成長フェノロジーの緯度変異). Forestry、91 (2):206-216
14. 平井敬三、小松雅史、長倉淳子、野口享太郎、齊藤哲、大橋伸太、川崎達郎、今村直広、矢崎健一、山田毅、池田重人、金指努、荒木眞岳、梶本卓也、竹中篤史、荒家武. 土壌から樹体への放射性セシウムの移行吸収－ヒノキ苗植栽後 3 年間の動態－. 日本土壌肥料学会講演要旨集、64:9
15. 田中憲蔵、齊藤哲、梶本卓也、三浦覚. アカマツ、コナラ、スギの当年枝と葉の放射性セシウム濃度の季節変化. 関東森林学会大会講演要旨集、8:26

16. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、SAITO Satoshi (齊藤哲)、TAMAI Koji (玉井幸治)、HIRATA Akiko (平田晶子・森林総研非常勤)、KAMIJO Takashi (上條隆志・筑波大)、MOTOE Daiki (本江大樹・筑波大)、SHITARA Takuto (設楽拓人・筑波大)、OYUNSUVD Sumya (モンゴル生命科学大)、JAMSRAN Undarmaa (モンゴル生命科学大)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、NAKAZONO Etsuko (中園悦子・東大生産技術研)、TAKEUCHI Wataru (竹内渉・東大生産技術研). Comparison of forest biomass before- and after- wild forest fires in the conifer forest in northern Mongolia (モンゴル北部針葉樹林における山火事前後のバイオマス比較). 関東森林研究、69 (1):59-62
17. 齊藤哲. 極端気象現象の林分への影響と強風および乾燥化の近年の傾向. 関東森林研究、69 (2):155-158
18. 齊藤哲. 新刊紹介「環境を守る森を調べる」. 森林立地、60 (2):93
19. 井上裕太 (森林総研 PD)、荒木眞岳、釣田竜也、阪田匡司、田中憲蔵、北岡哲 (元森林総研非常勤研究員)、齊藤哲. 降雨遮断による土壌の乾燥がスギ成木の葉の水利用に与える初期影響. 関東森林学会大会講演要旨集、8:33
20. 佐藤保、齊藤哲、荒木眞岳. 台風攪乱を伴った壮齢コジエ二次林の地上部純一次生産量の変動. 森林総合研究所報告、17 (4):325-332
21. 齊藤哲、中尾勝洋、長池卓男 (山梨県森林総合研究所). 日本の人工林における気候変動適応策の現状. 日本森林学会大会講演要旨集、130:78 (S2-1)
22. 板橋朋洋 (秋田県立大学)、野口麻穂子、松下通也、中川弥智子 (名古屋大学)、太田和秀 (秋田県立大学)、齊藤哲、星崎和彦 (秋田県立大学). コドラート調査は稚樹群集の構造をどの程度代表しているか? 全数調査との比較. 日本生態学会大会講演要旨集、66
23. IIDA Yoshiko (飯田佳子)、NIIYAMA Kaoru (新山薫)、AIBA Shinichiro (相場慎一郎・鹿児島大学)、I-Fang Sun (National DongHwa Univ.)、KUROKAWA Hiroko (黒川紘子)、MUKAI Mana (向井真那・京都大学)、SAITO Satoshi (齊藤哲). Tree demography and their associations with traits of leaf and stem in an evergreen broad-leaved forest in Yakushima Island (屋久島常緑広葉樹林における樹木の動態と葉や材の形質の関連). 日本生態学会全国大会、66:P2-110
24. 田中憲蔵、北岡哲 (日本森林林業振興会)、井上裕太 (森林総研 PD)、荒木眞岳、韓慶民、齊藤哲. スギ人工林における土壌乾燥実験 II. 光合成能力に与える影響. 日本森林学会大会講演要旨集、130:255
25. 田中憲蔵、齊藤哲、梶本卓也、三浦覚. アカマツ、コナラ、スギの当年枝と葉の放射性セシウム濃度の季節変化. 関東森林研究、70 (1)
26. 安田幸生、齊藤哲、勝島隆史. 強風の発生頻度と森林の風害面積. 日本農業気象学会全国大会講演要旨 (2019)、129
27. 荒木眞岳、井上裕太 (森林総研 PD)、釣田竜也、阪田匡司、齊藤哲. スギ人工林における土壌乾燥実験 III. 幹やシュートの成長に対する影響. 日本森林学会大会講演要旨集、130:255 (P2-100)
28. 井上裕太 (森林総研 PD)、荒木眞岳、釣田竜也、阪田匡司、田中憲蔵、北岡哲 (日本森林林業振興会)、齊藤哲. スギ人工林における土壌乾燥実験 I. 葉の水利用特性に及ぼす影響. 日本森林学会大会講演要旨集、130:255 (P2-098)

29. INOUE Yuta (井上裕太・森林総研 PD)、ARAKI Masatake (荒木眞岳)、TANAKA Kenzo (田中憲蔵)、KITAOKA Satoshi (北岡哲・日本森林林業振興会)、SAITO Satoshi (齊藤哲). Leaf physiological and morphological responses to artificial soil drought by rainfall exclusion experiment in mature Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) (降雨遮断による土壌の乾燥に対するスギ成木の葉の生理的・形態的応答). 日本生態学会大会講演要旨集、66:S18-4
30. 井上裕太 (森林総研 PD)、荒木眞岳、釣田竜也、阪田匡司、田中憲蔵、北岡哲 (日本森林林業振興会)、韓慶民、齊藤哲. 降雨遮断による土壌の乾燥がスギ成木の葉の水利用特性に与える影響. 関東森林研究、70 (1):53-56
31. 齊藤哲. 森林総合研究所関西支所のプロジェクト研究の紹介. 森林総合研究所関西支所研究情報、130:1
32. 齊藤哲. 森林総合研究所関西支所のプロジェクト研究の紹介 2. 森林総合研究所関西支所研究情報、131:1
33. 垂水亜紀. 近畿地方におけるシイタケ原木の需給実態. 林業経済学会秋季大会発表要旨集 (2018)、C22
34. 垂水亜紀. どう使う? 近畿の広葉樹. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集 (平成 30 年度)、9
35. 横田康裕、山本伸幸、垂水亜紀. 山側と発電事業者側とが win-win となる木質バイオマス発電事業: 兵庫県の事例. 九州支所年報、30:14-15
36. 杉山真樹、垂水亜紀、青井秀樹、久保山裕史、鈴木敦子 (アサヒグループ HD)、松岡洋一郎 (アサヒの森環境保全事務所)、渡辺知広 (アサヒプロマネジメント). アサヒグループホールディングス社有林「アサヒの森」におけるアベマキ等広葉樹材の有利販売方策の検討. 日本木材学会大会研究発表要旨集、69:Y16-05-1130
37. 垂水亜紀. 近畿の広葉樹 (コナラ) の用途. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、24-25
38. 細田育広. 山地流域における水流出プロセスと森林の水源涵養機能. 森林総合研究所関西支所研究情報、128:2-3
39. 細田育広、澤野真治、玉井幸治. 地域的な渇水リスク評価のための降水予測データの統計的補正法に関する検討. 水文・水資源学会研究発表会要旨集 (2018)、102-103
40. 細田育広. ヒノキ人工林 30% 間伐後 1 年間の林内雨量の経過. 日本森林学会大会学術講演集、130:158
41. 細田育広、小南裕志、深山貴文、岡野通明、後藤義明. 竜ノ口山森林理水試験地観測報告 (2006 年 1 月～ 2010 年 12 月). 森林総合研究所研究報告、18 (1):111-128
42. 細田育広. 基盤事業: 森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報、59:33-34
43. 伊藤武治、奥田史郎、酒井敦. 放置モウソウチク林の落葉量の年変動と伐採後の葉量の回復過程ー高知県の带状皆伐区での 10 年間の観測事例ー. 日本森林学会誌、100 (4):124-128
44. 稲垣善之、中西麻美 (京都大)、宮本和樹、奥田史郎、深田英久 (高知県)、柴田昌三 (京都大). 年平均気温と土壌条件がヒノキの樹冠窒素動態に及ぼす影響. 日本森林学会学術講演集、130:218
45. 奥田史郎、山下直子. 用途ごとの資源量を求めるための方法. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、18-19
46. 奥田史郎、小笠真由美、中尾勝洋、諏訪鍊平 (JIRCAS)、山下直子. 一貫作業によるヒノキ苗木の生長と雑草木の再生ー中国地方植栽地の事例ー. 日本森林学会大会学術講演集、130:249

47. NOGUCHI Mahoko (野口麻穂子)、HOSHIZAKI Kazuhiko (星崎和彦・秋田県立大学)、MATSUSHITA Michinari (松下通也)、SUGIURA Daiki (杉浦大樹・秋田県立大学)、YAGIHASHI Tsutomu (八木橋勉)、SAITOH Tomoyuki (齋藤智之)、ITABASHI Tomohiro (板橋朋洋・秋田県立大学)、OHTA Kazuhide (太田和秀・秋田県立大学)、SHIBATA Mitsue (柴田銃江)、HOSHINO Daisuke (星野大介)、MASAKI Takashi (正木隆)、OSUMI Katsuhiko (大住克博・鳥取大学)、TAKAHASHI Kazunori (高橋和規)、SUZUKI Wajirou (鈴木和次郎・元森林総研). Aboveground biomass and structure dynamics over 22 years in a temperate forest in northern Japan (北日本の温帯林における地上部バイオマスと林分構造の22年間の動態). International Long Term Ecological Research Network (ILTER) & 12th International Long-Term Ecological Research -East Asia and Pacific Regional Network (ILTER-EAP) Joint Conference (2018)、131
48. 野口麻穂子、星崎和彦(秋田県立大学)、松下通也、杉浦大樹(秋田県立大学)、八木橋勉、齋藤智之、板橋朋洋(秋田県立大学)、太田和秀(秋田県立大学)、柴田銃江、星野大介、正木隆、大住克博(鳥取大学)、高橋和規、鈴木和次郎(元森林総研). 奥羽山系の冷温帯林における22年間の地上部バイオマスと林分構造の変化. 日本森林学会大会学術講演集、130:272 (P2-168)
49. 山下直子、飛田博順. 乾いていない時は要注意. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 23
50. 山下直子. スギの新芽は落ちやすい. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 25
51. 山下直子、藤井栄(徳島県立農林水産総合技術支援センター). 種子の保存について. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 32
52. 山下直子、奥田史郎、中尾勝洋、倉地奈保子(平岡森林研究所)、宮浦富保(龍谷大学理工学部). コナラの樹形と直径階別材積との関係 - パイプモデルに基づく解析 -. 日本森林学会大会学術講演集、130:257
53. 藤井栄(徳島県立農林水産総合技術支援センター)、松田修(九州大学大学院)、山下直子、飛田博順. スギコンテナ苗の冷暗所長期保管の試み. 日本森林学会大会学術講演集、130:247
54. 山下直子. 資源をむだなく使うには? 用途に応じた材積の推定. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集(平成30年度)、8
55. 山下直子、田中真哉、中尾勝洋、奥田史郎. 地域にどんな樹種がどれくらいあるか?. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、12-13
56. 山下直子、田中真哉、垂水亜紀、奥田史郎. 広葉樹を利用する際に必要な考え方. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、1-9
57. 山下直子、田中真哉、中尾勝洋、奥田史郎. 近畿・中国地域における広葉樹資源の状況. 広葉樹の利用と森林再生についてのワークショップと現地検討会 in 東近江要旨集、12
58. 山下直子. 近畿圏の中山間地における広葉樹利用について. 地域再生シンポジウム in 山形講演要旨集 (2018)、3
59. HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農大)、Wang Zhiheng (北京大). Factors determining distributions of the vegetation boundary between evergreen and deciduous broad leaved forests in eastern Asia (東アジアの常緑と落葉広葉樹林の分布を規定する要因). International Association for Vegetation Science 61st Annual Symposium、61:100

60. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YAGIHASHI Tsutomu (八木橋勉)、KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Potential impact of climate change on canopy tree species composition of beech forests in Japan (日本のブナ林における、気候変動時の種組成変化の潜在的な影響). International Beech Symposium、11:77
61. 内山憲太郎、中尾勝洋、津村義彦 (筑波大学)、木村恵、上野真義. スギの遺伝的分化と環境への適応. 日本森林学会大会学術講演集、130:87 (S8-3)
62. 大橋春香 (森林総研 PD)、長谷川知子 (国環研)、平田晶子 (国環研)、藤森真一郎 (京大)、高橋潔 (国環研)、津山幾太郎、中尾勝洋、小南裕志、田中信行 (東京農大)、脇岡靖明 (国環研)、松井哲哉. 気候変動緩和策は土地改変による負の影響を差し引いても生物多様性保全に貢献しうる. 日本生態学会大会講演要旨集、66:P2-219
63. 大橋春香 (森林総研 PD)、長谷川知子 (国環研)、平田晶子 (国環研)、藤森真一郎 (京大)、高橋潔 (国環研)、津山幾太郎、中尾勝洋、小南裕志、田中信行 (東京農大)、脇岡靖明 (国環研)、松井哲哉. Biodiversity can benefit from long-term climate mitigation regardless of land-based measures (生物多様性は土地利用変化にかかわらず長期にわたる気候変動緩和策から正の影響を受ける). AIM International Workshop、24:2-3
64. TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、HOTTA Masanobu (堀田昌伸・長野県環境保全研)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、OZEKI Masaaki (尾関雅章・長野県環境保全研)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HAMADA Takashi (浜田崇・長野県環境保全研)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、YASUDA Masatsugu (安田正次・アジア航測)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農大). Climate change impact assessment on the southern limit populations of the rock ptarmigan, *Lagopus muta japonica*. (世界最南限のライチョウにおける温暖化の影響評価). International Grouse Symposium、14:P-10
65. HOTTA Masanobu (堀田昌伸・長野県環境保全研)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、TAKANO Kouhei (高野宏平・長野県環境保全研)、OZEKI Masaaki (尾関雅章・長野県環境保全研)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、HATANAKA Kenichiro (畑中健一郎・長野県環境保全研). Characteristics of the ptarmigan data observed by trekkers. (登山者によるライチョウ観察データの特徴). International Grouse Symposium、14:P-9
66. 木村恵、内山憲太郎、上野真義、中尾勝洋、津村義彦 (筑波大). 遺伝解析と分布予測モデルからみた最終氷期以降のスギの分布変遷. 日本森林学会大会講演要旨集、130:S8-2
67. 壁谷大介、宮本和樹、山川博美、中尾勝洋、荒木眞岳、栗屋善雄 (岐阜大). 積極的長伐期林業を目指した大径材生産技術の開発. 流域圏保全研究推進セミナー講演要旨集、3
68. 高橋裕史、諏訪鍊平 (JIRCAS)、中尾勝洋、山下直子、奥田史郎. 伐採位置を高くすることでシカから食べにくくなるか?. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、34-35
69. 瀧誠志郎、中尾勝洋、古家直行、高橋興明、田中真哉. 森林域における無人航空機等の先進技術の活用. 関東整備局現地検討会講演資料 (平成 30 年度)、1-34
70. AOKI Kyoko (青木京子・大阪大)、TAMAKI Ichiro (玉木一郎・岐阜森林アカデミー)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、UENO Saneyoshi (上野真義)、KAMIJO Takashi (上條隆志・筑波大)、SETOGUCHI Hiroaki (瀬戸口弘明・京大)、MURAKAMI Noriaki (村上哲明・首都大東京)、KATO Makoto (加藤眞・京大)、TSUMURA Yosihiko (津村義彦・筑波大). Approximate Bayesian computation analysis of EST associated microsatellites indicates that the broadleaved evergreen tree *Castanopsis sieboldii* survived the Last Glacial Maximum in multiple refugia in Japan (スダジイは最終氷期最盛期に複数の逃避地で生残してきた). Heredity、122 (3):326-340

71. 中尾勝洋. 森林生態系および林業における気候変動適応策の概観. 日本森林学会大会講演要旨集、130:78
72. 種子田春彦（東京大）、小笠真由美、矢崎健一、宮沢良行（九州大）、丸田恵美子（神奈川大）. 亜高山帯性常緑針葉樹シラビソの越冬戦略－枝における冬の通水阻害とその回復－. 日本植物学会大会研究発表記録、82:PF-103
73. 齋藤隆実（森林総研 PD）、飛田博順、矢崎健一、小笠真由美、奥田史郎、山下直子、宇都木玄. スギの葉の浸透圧とその変化. 日本植物学会大会研究発表記録、82
74. 齋藤隆実（森林総研 PD）、小笠真由美、飛田博順、矢崎健一、壁谷大介、小黒芳生（森林総研 PD）、宇都木玄. スギコンテナ苗において、出荷作業に最適な根鉢をもつ苗木を選別する手法. 日本森林学会大会講演要旨集、130:E1
75. 小笠真由美、平川雅文（東京大学）、市原優、矢崎健一、飛田博順、福田健二（東京大学）. コンパクト MRI を用いた樹幹内水分分布の非破壊的観察手法の多樹種への適用. 日本森林学会大会講演要旨集、130:P2-151
76. 三木直子（岡山大学）、栗飯原友（岡山大学）、小笠真由美. 落葉広葉樹の木部通水機能の回復性にはどのような生理的特性が影響するのか. 日本森林学会大会講演要旨集、130:G2
77. 小笠真由美、清水香代（長野県林業総合センター）. コンテナの配置による根鉢の形成不全. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 17
78. 小笠真由美、清水香代（長野県林業総合センター）. コンテナを地面に置くと根が地面まで伸びてしまう. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 19
79. 藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、佐々木愛（徳島森林づくり推進機構）、小笠真由美. 発芽後の毛苗移植. 育苗中困ったなという時に - コンテナ苗症例集 -, 27
80. 飛田博順、上野真義、深山貴文、伊豆田猛（東京農工大学）、矢崎健一、齋藤隆実（森林総研 PD）、小笠真由美、内山憲太郎、松本麻子、北尾光俊. 3 産地のスギ挿し木苗の光合成活性とバイオマス配分に対するオゾン暴露の影響. 日本生態学会大会講演要旨、66:P2-149
81. 岡本透. 図像資料を用いて江戸時代の土地利用を復元する. 森林総合研究所研究成果選集（平成 30 年版）、12-13
82. 岡本透. 2017 年のスズタケ一斉開花－六甲山の場合－. 森林総合研究所関西支所研究情報、129:1-2
83. 丹羽峻也（京都大）、井鷲裕司（京都大）、岡本透、齋藤智之. スズタケは 120 年の長期開花周期をどのように計測しているのか？. 日本植物学会大会研究発表記録、82:PF-018
84. 九町健一（鹿児島大）、飛田博順、池邊茉莉（鹿児島大）、柴田銃江、今矢明宏（国際農林水産業研究センター）、壁谷大介、齋藤智之、岡本透、小野賢二、森貞和仁. *Frankia* communities at revegetating sites in Mt. Ontake, Japan（御嶽山の植生回復地におけるフランキア群集）. *Antonie van Leeuwenhoek International Journal of General and Molecular Microbiology*, <https://doi.org/10.1007/s10482-018-1151-4>
85. 富樫均（長野県環境保全研究所）、岡本透、須賀丈（長野県環境保全研究所）. 霧ヶ峰高原に分布する黒色土の 14C 年代と C/N 比. 長野県環境保全研究所報告、14:7-12
86. 鶴田健二（森林総研 PD）、橋本昌司、片柳薫子（農研機構）、石塚成宏、金子真司、相澤州平、橋本徹、伊藤江利子、梅村光俊、篠宮佳樹、森下智陽、小野賢二、野口享太郎、岡本透、酒井寿夫、鳥山淳平、酒井佳美、稲垣昌宏、白戸康人（農研機構）、小原洋（農研機構）、神山和則（農研機構）、高田裕介（農研機構）、神田隆志（農研機構）、井上美那（農研機構）、草場敬（農研機構）. 森林と農地間の土地利用変化に伴う土壌炭素量の変化予測. 日本森林学会講演要旨集、130

87. 石塚成宏、鶴田健二（森林総研 PD）、橋本昌司、相澤州平、篠宮佳樹、橋本徹、伊藤江利子、梅村光俊、森下智陽、野口享太郎、小野賢二、岡本透、金子真司、鳥居厚志、酒井寿夫、鳥山淳平、酒井佳美、稲垣昌宏、白戸康人（農研機構）、片柳薫子（農研機構）、小原洋（農研機構）、神山和則（農研機構）、高田裕介（農研機構）、井上美那（農研機構）、神田隆志（国際農研）、草場敬（農研機構）。農地から森林への土地利用変化が土壤炭素量に与える影響－続報－。日本森林学会講演要旨集、130:148（P1-142）
88. 小林政広、吉永秀一郎、伊藤優子、篠宮佳樹、相澤州平、岡本透、釣田竜也。桂不動谷津流域における 2001 ～ 2014 年の降水と渓流水の水質。森林総合研究所研究報告、17（4）:333-373
89. 山浦悠一、成田あゆ（道立林業試験場）、楠本良延（西日本農業研究センター）、永野惇（龍谷大学）、手塚あゆみ（龍谷大学）、岡本透（関西支所）、高原光（京都府立大学）、中村太士（北海道大学）、井鷲裕司（京都大学）、David Lindenmayer（オーストラリア国立大学）。Genomic reconstruction of 100000 year grassland history in a forested country: population dynamics of flowering specialist forbs（森林の国における 10 万年間の草原の歴史の再構築：草本スペシャリストの集団動態）。イギリス生態学会年次大会（2018）、S37
90. 宮本麻子、芳賀和樹（東京大学）、岡本透。施業図解析等に基づく昭和以降のスギ資源量の変化。日本森林学会大会講演要旨集、130:S8-6
91. 池田重人、志知幸治、岡本透。花粉分析からみた最終氷期以降のスギの分布変遷。日本森林学会大会学術講演集、130:87
92. 池田重人、志知幸治、岡本透、林竜馬（琵琶湖博物館）。鳥海山麓の桑ノ木台湿原周辺における晩氷期以降の植生変遷と「鳥海ムラスギ」の消長。日本花粉学会会誌、64:39-53
93. 志知幸治、池田重人、岡本透、芳賀和樹（東京大学）、宮本麻子、落合伸也（金沢大学）。花粉分析と歴史史料に基づく江戸時代以降のスギ林変遷と人為影響。日本森林学会大会学術講演集、130:88
94. 岡本透、志知幸治、池田重人。絵図から読み解く近年のスギの分布変化。日本森林学会講演要旨集、130:88（S8-5）
95. 岡本透。草原とひとびとの営みの歴史－堆積物と史料からひもとかれる「眺めのよかった」日本列島。草地と日本人〔増補版〕－縄文人からつづく草地利用と生態系－（築地書館、256pp）、106-169
96. 梅村光俊、谷川東子、岡本透、鳥居厚志。モウソウチクの葉、稈、根の分解初期にみられる植物ケイ酸体の形態。日本生態学会大会講演要旨集、66:P2-397
97. HIRANO Yasuhiro（平野恭弘・名古屋大学大学院環境学研究科）、TODO Chikage（藤堂千景・兵庫県森林セ）、YAMASE Keitaro（山瀬敬太郎・兵庫県森林セ）、TANIKAWA Toko（谷川東子）、DANNOURA Masako（檀浦正子・京都大）、OHASHI Mizue（大橋瑞江・兵庫県立大）、DOI Ryuusei（土居龍成・名古屋大）、WADA Ryusei（和田竜征・名古屋大）、IKENO Hidetoshi（池野英利・兵庫県立大）。Quantification of the contrasting root systems of *Pinus thunbergii* in soils with different groundwater levels in a coastal forest in Japan（地下水位の異なる土壤に生育する海岸マツ林の対照的な根系の定量評価）。Plant and Soil、426（1-2）:327-337
98. TANIKAWA Toko（谷川東子）、ITO Yoshiaki（伊藤嘉昭・京大）、FUKUSHIMA Sei（福島整・兵庫県立大ニュースバル）、YAMASHITA Michiru（山下満・兵庫県工業試験）、SUGIYAMA Akifumi（杉山曉史・京大）、MIZOGUCHI Takeo（溝口岳男）、OKAMOTO Toru（岡本透）、HIRANO Yasuhiro（平野恭弘・名古屋大）。Calcium speciation in forest soils by a double-crystal High resolution x-ray fluorescence spectroscopy.（高分解能 2 結晶分光分析法を用いた森林土壌におけるカルシウム分画）。The EAFES（East Asian Federation of Ecological Societies）Abstract book、8:168

99. WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Morphological traits of fine roots in *Cryptomeria japonica* by branch order classification compared with other tree species. (スギの細根次数形態を多樹種と比較する). The EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) Abstract book、8:140
100. DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Morphological variations in branch order-based roots in *Chamaecyparis obtusa*. (ヒノキの細根次数形態のバリエーション). The EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) Abstract book、8:28
101. KITAGAMI Yudai (北上雄大・三重大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大). Characterization of soil nematode communities of coastal and inland coniferous forests in Japan. (海岸と内陸の針葉樹林における土壌線虫群集の特徴). The EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) Abstract book、8:139
102. 宮谷紘平 (名古屋大)、谷川東子、牧田直樹 (信州大)、平野恭弘 (名古屋大). ヒノキ細根呼吸は比根長 SRL でよく説明できる. 根研究集会、48:56
103. 谷川東子、松田陽介 (三重大)、藤堂千景 (兵庫県森林セ)、山瀬敬太郎 (兵庫県森林セ)、池野英利 (兵庫県立大)、大橋瑞江 (兵庫県立大)、檀浦正子 (京大)、平野恭弘 (名古屋大). 海岸林における土壌の理化学特性がクロマツの垂直根構造におよぼす影響. 根研究集会、48:57
104. 平野恭弘 (名古屋大)、谷川東子、新田響平 (秋田県林セ)、太田敬之、小野賢二、野口宏典. 異なる周波数を用いた地中レーダによる海岸カシワ根系の検出. 根研究集会、49:27
105. 谷川東子、平野恭弘 (名古屋大)、新田響平 (秋田県林セ)、太田敬之、小野賢二、大谷達也、萩野裕章、野口宏典. 地中レーダを用いた海岸カシワの水平根系構造の推定. 根研究集会、49:27
106. 土居龍成 (名古屋大)、谷川東子、和田竜征 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). 酸緩衝能の異なる土壌に生育するヒノキ細根系の次数形態特性. 根研究集会、49:30
107. 和田竜征 (名古屋大)、谷川東子、土居龍成 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大). 樹木1次根の直径変動とその要因—スギを含むヒノキ科に着目して. 根研究集会、49:15
108. KITAGAMI Yudai (北上雄大・三重大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大). Habitat filtering influences community structures of nematodes at *Cryptomeria japonica* forests in Japan (日本のスギ林におけるハビタットフィルタリングが線虫の群落構造に及ぼす影響). The Symposium of the European Society of Nematologists、33:192
109. TANIKAWA Toko (谷川東子)、HASHIMOTO Yohei (橋本洋平・東京農工大)、YAMAGUCHI Noriko (山口紀子・農環研)、TAKAHASHI Masamichi (高橋正通・国際緑化推進センター)、YOSHINAGA Shuichiro (吉永秀一郎). Sulfur accumulation rates in volcanic soils of eastern Japan over the last millennium based on tephrochronology. (テフロクロロジーに基づく過去1000年間の東日本の火山灰土におけるイオウ蓄積速度). Geoderma、315:111-119
110. 谷川東子、松田陽介 (三重大)、平野恭弘 (名古屋大)、溝口岳男、藤井佐織、眞家永光 (北里大). 葉と細根の分解過程で基質から吸収・放出される窒素成分. 日本土壤肥料学会講演要旨集、64:10
111. 今枝寛太 (三重大)、谷川東子、松田陽介 (三重大). 中日本の人工林で採取されたスギ細根に関わる内生菌の分類属性. 中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、8:309

112. 山口郷彬 (三重大)、谷川東子、小長谷啓介、松田陽介 (三重大). 塩化ナトリウム処理がクロマツ実生に形成された *Cenococcum geophilum* 菌根の細胞外酵素活性に及ぼす影響. 中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、8:313
113. 松田陽介 (三重大)、谷川東子. 中日本の人工林においてスギ細根に内在する真菌類の分離, 培養. 中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、8:310
114. TANIKAWA Toko (谷川東子)、FUJII Saori (藤井佐織)、Sun L. (孫レイエン・京都大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大)、MIYATANI Kohei (宮谷紘平・名古屋大)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、MIZOGUCHI Takeo (溝口岳男)、MAIE Nagamitsu (眞家永光・北里大). Leachate from fine root litter is more acidic than leaf litter leachate: A 2.5-year laboratory incubation (細根の分解過程で溶出する成分は、葉のそれより酸性である。2.5 年の室内培養実験より). *Science of the Total Environment*, 645:179-191
115. 喜多晃平 (三重大)、谷川東子、松田陽介 (三重大). 中日本のスギ人工林のスギ細根内に定着するアーバスキュラー菌根菌の群集構造. 日本生態学会中部地区大会講演要旨集 (2018)、27
116. KITAGAMI Yudai (北上雄大・三重大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MIZOGUCHI Takeo (溝口岳男)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大). Nematode communities in pine forests are shaped by environmental filtering of habitat conditions (マツ林の線虫群落は、生息環境条件の環境フィルタリングによって形成される). *Journal of Forest Research*, 23 (6):346-353
117. SASE Hiroyuki (佐瀬裕之・アジア大気汚染研究センター)、TAKAHASHI Masamichi (高橋正通・国際緑化推進センター)、MATSUDA Kazuhide (松田和秀・農工大)、SATO Keiichi (佐藤啓市・アジア大気汚染研究センター)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、YAMASHITA Naoyuki (山下尚之)、OHIZUMI Tsuyoshi (大泉毅・アジア大気汚染研究センター)、ISHIDA Takuya (石田卓也・名古屋大)、KAMISAKO Masato (上迫正人・アジア大気汚染研究センター)、KOBAYASHI Ryo (小林亮・アジア大気汚染研究センター)、UCHIYAMA Shigeki (内山重輝・アジア大気汚染研究センター)、SAITO Tatsuyoshi (齋藤辰善・アジア大気汚染研究センター)、MOROHASHI Masayuki (諸橋将雪・アジア大気汚染研究センター)、FUKUHARA Haruo (福原晴夫・新潟大学)、KANEKO Shinji (金子真司)、INOUE Takanobu (井上隆信・豊橋技科大)、YAMADA Toshiro (山田俊郎・岐阜大)、TAKENAKA Chisato (竹中千里・名古屋大)、TAYASU Ichiro (陀安一郎・地球研)、NAKANO Takanori (中野孝教・地球研)、HAKAMATA Tomoyuki (袴田共之・浜松ホトニクス)、OHTA Seiichi (太田誠一・国際緑化推進センター). Response of river water chemistry to changing atmospheric environment and sulfur dynamics in a forested catchment in central Japan (中部地方の森林小集水域における大気環境と硫黄動態の変化に対する溪流水質の応答). *Biogeochemistry*, 142 (3):357-374
118. OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大)、SEKIHARA Kotaro (関原光太郎・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、YAMASE Keitaro (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、TOMITA Takahiro (富田隆弘・兵庫県立大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Reconstruction of root systems in *Cryptomeria japonica* using root point coordinates and diameters (根の座標と直径を用いたスギの根系の再構築). *Planta*, 249 (2):445-455
119. YAMASE Keitaro (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大)、AONO Kenji (青野健治・KANSO)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大学). Ground penetrating radar estimates of tree root diameter and distribution under field conditions (野外条件における根の直径と分布を地中レーダで推定する). *Trees*, 32 (6):1657-1668

120. TODO Chikage (藤堂千景・兵庫県森林セ)、TOKORO Chie (所千恵・名古屋大)、YAMASE Keitaro (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、OHASHI Mizue (大橋瑞江・兵庫県立大)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、MIYATANI Kouhei (宮谷絃平・名古屋大)、DOI Ryuusei (土居龍成・名古屋大)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Stability of *Pinus thunbergii* between two contrasting stands at differing distances from the coastline (海岸汀線からの距離の違いが対照的なふたつの林分におけるクロマツの倒伏耐性). *Forest Ecology and Management*, 431:44-53
121. 多田泰之. 国土の変遷と災害. *水利科学*, 363:121-137
122. 伊藤淳平 (帝京科学大学)、和田龍一 (帝京科学大学)、高梨聡、深山貴文、岡野通明、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所)、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、松見豊 (名古屋大学)、高木健太郎 (北海道大学)、植山雅仁 (大阪府立大学)、宮崎雄三 (北海道大学). 富士山麓森林におけるオゾンフラックスの観測. 日本地球惑星科学連合大会講演要旨集 (2018)、MIS14-P03
123. 奥野佳司 (帝京科学大学)、和田龍一 (帝京科学大学)、松見豊 (名古屋大学)、高梨聡、深山貴文、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、植山雅仁 (大阪府立大学)、高木健太郎 (北海道大学)、堅田元喜 (茨城大学)、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所)、反町篤行 (福島県立医科大学). レーザー誘起蛍光法を用いた森林生態系における NO₂ フラックスの計測. 日本農業気象学会北陸支部・関東支部合同例会 (2018)、14
124. 鈴木拓海 (信州大学)、岩田拓記 (信州大学)、高梨聡、深山貴文、溝口康子、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子. アカマツ林からの蒸発散量を変化させる駆動要因. 日本農業気象学会北陸支部・関東支部合同例会 (2018)、13
125. 榊原進哉 (信州大学)、高梨聡、深山貴文、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子. アカマツ林の林床からの CO₂ 放出の季節変化とその制御要因. 日本農業気象学会北陸支部・関東支部合同例会 (2018)、12
126. 河原田麻結 (信州大学)、岩田拓記 (信州大学)、高梨聡、深山貴文、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子. アカマツ林における陸面モデルを用いた CO₂ および水蒸気フラックスのシミュレーション. 日本農業気象学会北陸支部・関東支部合同例会 (2018)、11
127. 小杉緑子 (京都大学)、高梨聡、野口正二、伊藤雅之 (兵庫県立大学)、中路達郎 (北海道大学)、鎌倉真依 (京都大学)、東若菜 (京都大学)、Shamusddin Siti-Aisah (FRIM)、Lion Marryanna (FRIM). 熱帯雨林における蒸発散の恒常性について. 水文・水資源学会大会講演要旨集 (2018)、24
128. 和田龍一 (帝京科学大学)、松見豊 (名古屋大学)、高梨聡、深山貴文、望月智貴 (静岡県立大学)、谷晃 (静岡県立大学)、米村正一郎 (農研機構)、植山雅仁 (大阪府立大学)、高木健太郎 (北海道大学)、宮崎雄三 (北海道大学)、堅田元喜 (茨城大学)、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所). オゾンと二酸化窒素のフラックス計測手法の開発と森林生態系における応用. *大気環境学会*, 59:1G1115
129. SUZUKI Takumi (鈴木拓海・信州大学)、IWATA Hiroki (岩田拓記・信州大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、OKANO Michiaki (岡野通明)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YOSHIFUJI Natsuko (吉藤奈津子). Driving factors of the change in evapotranspiration from a red pine ecosystem (アカマツ生態系からの蒸発散の変動要因). *AsiaFlux Workshop 2018*, 72-73

130. NAGAI Shin (永井信・海洋研究開発機構)、AKITSU Tomoko (秋津朋子・筑波大学)、SAITOH Taku M. (斎藤琢・岐阜大学)、Busey Robert C. (アラスカ大学)、FUKUZAWA Karibu (福澤加里部・北海道大学)、HONDA Yoshiaki (本多嘉明・千葉大学)、ICHIE Tomoaki (市栄智明・高知大学)、IDE Reiko (井出玲子・国立環境研究所)、IKAWA Hiroki (伊川浩樹・農研機構)、IWASAKI Akira (岩崎晃・東京大学)、IWAOKI Koki (岩男弘毅・産業技術総合研究所)、KAJIWARA Koji (梶原康司・千葉大学)、Kang Sinkyu (江原大学校)、Kim Yongwon (アラスカ大学)、Khoon Kho Lip (マレーシア熱帯泥炭研究所)、Kononov Alexander V. (ロシア科学アカデミー)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、MAEDA Takahisa (前田高尚・産業技術総合研究所)、MAMIYA Wataru (間宮渉・北海道大学)、MATSUOKA Masayuki (松岡真如・高知大学)、Maximov Trofim C. (ロシア科学アカデミー)、Menzel Annette (ミュンヘン工科大学)、MIURA Tomoaki (ハワイ大学)、MIZUNUMA Toshie (水沼登志恵・国立環境研究所)、MOROZUMI Tomoki (両角友喜・北海道大学)、MOTOHKA Takeshi (本岡毅・宇宙航空研究開発機構)、MURAOKA Hiroyuki (村岡裕由・岐阜大学)、NAGANO Hirohiko (永野博彦・アラスカ大学)、NAKAI Taro (中井太郎・名古屋大学)、NAKAJI Tatsuro (中路達郎・北海道大学)、OGUMA Hiroyuki (小熊宏之・国立環境研究所)、OHTA Takeshi (太田岳史・名古屋大学)、ONO Keisuke (小野圭介・農研機構)、Punga Runi Anak Sylvester (サラワク森林局)、Petrov Roman E. (ロシア科学アカデミー)、SAKAI Rei (坂井励・北海道大学)、Schunk Christian (ミュンヘン工科大学)、SEKIKAWA Seikoh (関川清広・玉川大学)、Shakhmatov Ruslan (北海道大学)、Son Yowhan (高麗大学校)、SUGIMOTO Atsuko (杉本敦子・北海道大学)、SUZUKI Rikie (鈴木力英・海洋研究開発機構)、TAKAGI Kentaro (高木健太郎・北海道大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、TEI Shunsuke (鄭峻介・北海道大学)、TSUCHIDA Satoshi (土田聡・産業技術総合研究所)、YAMAMOTO Hirokazu (山本浩万・産業技術総合研究所)、YAMASAKI Eri (山崎絵理・チューリッヒ大学)、YAMASHITA Megumi (山下恵・東京農工大学)、Yoon Tae Kyung (韓国環境学院)、YOSHIDA Toshiya (吉田俊也・北海道大学)、YOSHIMURA Mitsunori (吉村充則・株式会社パスコ)、YOSHITAKE Shinpei (吉竹晋平・岐阜大学)、Wilkinson Matthew (イギリス森林研究所)、Wingate Lisa (フランス農業研究所)、NASAHARA Kenlo Nishida (奈佐原顕郎・筑波大学). 8 million phenological and sky images from 29 ecosystems from the Arctic to the tropics: the Phenological Eyes Network (極から熱帯までの29の生態系から撮影された八百万の生物季節と空の映像: フェノロジカルアイズネットワーク). Ecological Research, ERDP-2018-05, DOI:10.1007/s11284-018-1633-x
131. 野口正二、小杉緑子 (京都大学)、高梨聡、伊藤雅之 (兵庫県大学)、Siti Aisha SHUMSUDDIN (マレーシア森林研究所)、Marryana LION (マレーシア森林研究所). 半島マレーシア・パソ森林保護区における土壌水分の長期観測. 水文・水資源学会研究発表会要旨集、31:222-223
132. 小杉緑子 (京都大学)、野口正二、高梨聡、伊藤雅之 (兵庫県大学)、Marryana LION (マレーシア森林研究所). 東南アジア熱帯雨林における蒸発散に寄与する土層深についての水文学的解析. 日本森林学会大会学術講演集、130:J17
133. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、森下智陽、野口宏典、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学). 全国のタワーサイトで採取された森の香り物質の季節変動特性. 日本森林学会大会学術講演集、130:222
134. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、森下智陽、野口宏典、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学). 植生が異なる森林のモノテルペン組成の特徴. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2019)、116
135. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、森下智陽、野口宏典、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子、高梨聡、北村兼三、松本一穂 (琉球大学). 森林タワーサイト間の森の香り物質の比較. 平成30年度陸域生態系モニタリング研究集会、16

136. 和田龍一（帝京科学大学）、植山雅仁（大阪府立大学）、谷晃（静岡県立大学）、望月智貴（静岡県立大学）、宮崎雄三（北海道大学）、河村公隆（北海道大学）、高橋善幸（国立環境研究所）、三枝信子（国立環境研究所）、高梨聡、深山貴文、中野隆志（山梨県富士山科学研究所）、米村正一郎（農研機構）、松見豊（名古屋大学）、堅田元喜（茨城大学）。Observation of vertical profiles of Nox, O₃, and VOCs to estimate their sources and sinks by inverse modelling in a Japanese larch forest（カラマツ林における窒素酸化物、オゾン、揮発性有機化合物の観測とインバースモデルによる起源の推定）。International Symposium on Agricultural Meteorology 2019、PI-4
137. 高梨聡、檀浦正子（京都大学）、中野隆志（山梨県富士山科学研究所）、小南裕志、深山貴文。アカマツの冬季吸収炭素の放出特性。日本生態学会大会講演要旨集、66:P2-151
138. MATSUBARA Takashi（松原隆志・大林組技術研究所）、KOSUGI Yoshiko（小杉緑子・京都大学）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、OTSUKA Kiyotoshi（大塚清敏・大林組技術研究所）。Gas exchange and growth/decline model of C3 turfgrass fields under various light conditions（様々な光条件下における C3 芝地のガス交換と生長・衰退モデル）。Ecological Modelling、397:107-121、DOI:10.1016/j.ecolmodel.2018.09.012
139. 鈴木拓海（信州大学）、岩田拓記（信州大学）、高梨聡、深山貴文、溝口康子、岡野通明、小南裕志、吉藤奈津子。アカマツ林からの蒸発散量の十年規模変動とその物理的・生物的制御要因。日本農業気象学会全国大会講演要旨集（2019）、66
140. 安宅未央子（京都大学）、小南裕志、吉村謙一（山形大学）、高梨聡。暖温帯林における落葉炭素収支 - 分解呼吸量・溶脱量の環境応答 -。日本森林学会大会講演要旨集、130:P1-146
141. 小南裕志、高梨聡、深山貴文、吉藤奈津子、岡野通明、中野隆志（富士山研究所）。冷温帯アカマツ林の CO₂ 吸収量の長期変動。日本森林学会大会講演要旨集、130:P2-177
142. Marryana LION（マレーシア森林研究所）、Siti-Aisah SHAMSUDDIN（マレーシア森林研究所）、KOSUGI Yoshiko（小杉緑子・京都大学）、KATSUYAMA Masanori（勝山正則・京都大学）、NOGUUCHI Shoji（野口正二）、TAKANASHI Satoru（高梨聡）、Mohd Ghazali HASAN（マレーシア森林研究所）。Determination of water origin and distribution for lowland tropical rainforest in Peninsular Malaysia（半島マレーシア熱帯雨林における水の起源と分布）。International Journal of Agriculture, Forestry and Plantation（原著論文掲載誌一覧登録申請中）、7:7-12
143. HASHIMOTO Shoji（橋本昌司）、IMAMURA Naohiro（今村直広・森林総研 PD）、KANEKO Shinji（金子真司）、KOMATSU Masabumi（小松雅史）、MATSUURA Toshiya（松浦俊也）、NISHINA Kazuya（仁科一哉・国環研）、OHASHI Shinta（大橋伸太）。A database on radiocesium dynamics in Fukushima forests（福島県の森林における放射性セシウム動態データベース）。European Geosciences Union General Assembly 2018、EGU2018-2110
144. 金子真司。森にとどまる放射性セシウム 樹木の葉・幹から土壌表層に移動作業では土砂流出を防ぐ配慮を。グリーンパワー、2018-8:10-11
145. 金子真司。新刊紹介：福島原発事故と福島の農業。森林立地、60（1）:35
146. 眞中卓也、今村直広（森林総研 PD）、金子真司、三浦寛、古澤仁美、金指努（森林総研 PD）。福島県の森林土壌における交換態放射性セシウムの割合とその経年変動。日本土壌肥科学会講演要旨集、64:137

147. NISHINA Kazuya (仁科一哉・国環研)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、IMAMURA Naohiro (今村直広)、OHASHI Shinta (大橋伸太)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、KANEKO Shinji (金子真司)、HAYASHI Seiji (林誠二・国環研). Calibration of forest ¹³⁷Cs cycling model "FoRothCs" via approximate Bayesian computation based on 6-year observations from plantation forests in Fukushima (森林の Cs¹³⁷ サイクルモデル FoRothCs を 6 年間の観測と ABC 法を用いたキャリブレーション). *Journal of Environmental Radioactivity*, 193-194:82-90
148. 金子真司、後藤義明、田淵隆一、赤間亮夫、池田重人、篠宮佳樹、今村直広 (森林総研 PD). 帰還困難区域で発生した森林火災が樹木樹皮と表層土壌の放射性セシウムの蓄積に及ぼす影響. 森林総合研究所研究報告、17(3):259-264
149. 小野賢二、小松雅史、志知幸治、三浦覚、赤間亮夫、金子真司、平井敬三. 森林林床における ¹³⁷Cs の存在形態とその経年変化に関する検討. 日本森林学会講演要旨集、130:PR0583
150. MANAKA Takuya (眞中卓也)、IMAMURA Naohiro (今村直広)、KANEKO Shinji (金子真司)、MIURA Satoru (三浦覚)、FURUSAWA Hitomi (古澤仁美)、KANASASHI Tsutomu (金指努・森林総研 PD). Six-year trends in exchangeable radiocesium in Fukushima forest soils (福島森林土壌における交換態放射性セシウムの 6 年間の変動). *Journal of Environmental Radioactivity*, DOI: 10.1016/j.jenvrad.2019.02.014
151. 篠宮佳樹、三浦覚、金子真司、大橋伸太、齊藤哲、藤原健、荒木眞岳、倉本恵生. 帰還困難区域内およびその周辺のスギ林内における放射性セシウムの分布実態. 日本森林学会大会学術講演集、130:153
152. NISHINA Kazuya (仁科一哉・国環研)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、IMAMURA Naohiro (今村直広)、OHASHI Shinta (大橋伸太)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、KANEKO Shinji (金子真司)、HAYASHI Seiji (林誠二・国環研). Development and application of forest ¹³⁷Cs cycling model "FoRothCs" (森林内の ¹³⁷Cs 循環モデル "FoRothCs" の開発と適用). 日本地球惑星科学連合大会 (2018)、MIS14-06
153. FUJII Kazumichi (藤井一至)、YAMAGUCHI Noriko (山口紀子・農環研)、IMAMURA Naohiro (今村直広)、KOBAYASHI Masahiro (小林政広)、KANEKO Shinji (金子真司)、TAKAHASHI Masamichi (高橋正通・JIFPRO). Effects of radiocesium fixation potentials on ¹³⁷Cs retention in volcanic soil profiles of Fukushima forests (福島森林における火山灰土壌における ¹³⁷セシウムの保持に対するセシウム固定能の影響). *Journal of Environmental Radioactivity*, 198:126-134, DOI: 10.1016/j.jenvrad.2018.12.025
154. 金子真司. 降雨および溪流水の紫外吸光度と溶存有機炭素濃度の関係. 日本森林学会大会学術講演集、130:146
155. 鳥居厚志. 日本におけるタケと近年の竹林の拡大. *地理*、756:6-13
156. 鳥居厚志. 竹の駆除は容易ではない. *JATAFF ジャーナル*、6 (8):12-16
157. 鳥居厚志. 竹林の放置と分布、拡大は今後も続く. *都市と自然*、509:04-09
158. 酒井寿夫、山田毅、鳥居厚志、篠宮佳樹、稲垣善之、吉永秀一郎、野口享太郎、森下智陽. 四万十川上流の森林流域における 2000 ~ 2015 年の降水と溪流水の水質モニタリング. 森林総合研究所研究報告、18 (1):129-187
159. 浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、吉賀豊司 (佐賀大)、竹内祐子 (京都大)、市原優、神崎菜摘. 捕食性の進化に伴うクチクラ微細構造の変化. 日本線虫学会大会、26:O-03
160. 浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、吉賀豊司 (佐賀大)、竹内祐子 (京都大)、市原優、神崎菜摘. The cuticle ultrastructure of aphelenchoidid predators (アフエレンコイデス科捕食性線虫のクチクラ微細構造). *European Society of Nematologists meeting Abstract* (2018)、:38

161. 中村克典、前原紀敏、相川拓也、大塚生美、佐藤大樹、浦野忠久、市原優、井城泰一、那須仁弥、山野邊太郎、中島剛（青森県林業研究所）、後藤幸広（岩手県林技セ）、谷内博規（岩手県林技セ）、宮下智弘（山形県森林研究研修セ）、渡部公一（山形県森林研究研修セ）、杉本博之（山口県農林総合技セ）。使える技術を総動員する新たな松くい虫被害対策。森林総合研究所研究成果選集（平成30年版）、18-19
162. MASUYA Hayato（升屋勇人）、ICHIHARA Yu（市原優）、AIKAWA Takuya（相川拓也）、TAKAHASHI Yukiko（高橋由紀子）、KUBONO Takanori（窪野高德）。Predicted potential distribution of *Sydowia japonica* in Japan (*Sydowia japonica* の日本における潜在分布予測)。Mycoscience, 59 (5):392-396
163. 升屋勇人、田端雅進、市原優、景山幸二（岐阜大学）。国産漆の新たな脅威・*Phytophthora cinnamomi*。日本森林学会大会学術講演集、130:S9-5
164. 市原優。マツノザイセンチュウに侵入されたマツに起こること。森林保護と林業のビジネス化(日本林業調査会、212頁)、75-84
165. 市原優、杉田久志（雪森研究所）。木曾ヒノキ天然更新において地表環境が種子菌害率に与える影響。日本生態学会大会講演要旨集、66:PR0338
166. 市原優、樫間岳（国際農研）、相川拓也、升屋勇人。ヒバ天然更新林におけるヒバ漏脂病の発病に与える間伐強度の影響。日本森林学会大会学術講演集、130:234
167. 浴野泰甫（鹿児島大・佐賀大）、吉賀豊司（鹿児島大・佐賀大）、竹内祐子（京大・農）、市原優、神崎菜摘。線形動物門における運動関連器官の性的二型。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、63:PS001
168. 田端雅進、升屋勇人、安藤裕萌、市原優、相川拓也。*Diaporthe toxicodendri* によるウルシ胴枯病（新称）の発生。日本植物病理学会東北部会、54:12
169. 石原誠、西井俊太郎（京都府立大学）、池田武文（京都府立大学）、市原優。サクラ類こぶ病菌の病徴発現に及ぼす紫外線の付加照射の影響。日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集（平成31年度）、554
170. 市原優。菌類の寿命。森林総合研究所関西支所研究情報、130:4
171. 関伸一。西日本の島状生息地の劣化がコマドリにもたらす影響。日本鳥学会大会講演要旨集（2018）、122
172. 関伸一、安田雅俊。鳥類の擬巣における外来のクリハラリス *Callosciurus erythraeus* による卵捕食。哺乳類科学、58 (1):33-40
173. 関伸一。アカヒゲがつなぐ琉球の島々：アカヒゲの渡りと系統地理。島の鳥類学：南西諸島の鳥をめぐる自然史（水田拓・高木昌興共編、海游舎、464頁）、58-75
174. 関伸一。野鳥の寿命。森林総合研究所関西支所研究情報、128:4
175. MAKINO Shun'ichi（牧野俊一）、OKABE Kimiko（岡部貴美子）、KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）。Acarinaria and mite associates of the large carpenter bee *Xylocopa* (*Koptortosoma*) *ruficeps* (Hymenoptera: Apidae) from Taiwan（台湾産クマバチ *Xylocopa ruficeps* のダニ室及び随伴ダニ類について）。Journal of the Acarological Society of Japan、27 (1):13-19
176. 井手竜也（森林総研PD・現科博）、神崎菜摘、升屋勇人、岡部貴美子。Application of the LAMP assay for the detection of the Argentine ant, *Linepithema humile* (Hymenoptera: Formicidae), from captures of pan traps (LAMP法によるパン・トラップ捕獲物からのアルゼンチンアリ *Linepithema humile* の検出)。Applied Entomology and Zoology、53 (2):275-279

177. 浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、田中克 (龍谷大)、神崎菜摘、竹内祐子 (京都大). Tolerance to oxidative stress of inbred strains of the pine wood nematode, *Bursaphelenchus xylophilus*, differing in terms of virulence. (マツノザイセンチュウ純系系統の病原力と酸化ストレス耐性の関係). *Nematology*, 20 (6):539-546
178. Pedram, M. (Tarbiat Modares 大学)、神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大)、Pourjam, E. (Tarbiat Modares 大学). A molecular phylogenetic approach for unravelling the taxonomic status of *Basilaphelenchus persicus* n. gen., n. sp. (Aphelenchoididae: Tylaphelenchinae). (新属新種、*Basilaphelenchus persicus* の記載と系統解析). *Nematology*, 20 (6):567-582
179. 神崎菜摘、田中克 (龍谷大)、伊藤昌明 (青森県)、田中光二 (青森県)、Slippers, B. (プレトリア大)、田端雅進. Some additional bionomic characters of *Deladenus nitobei*. (*Deladenus nitobei* の生物学的形質の追加記載). *Nematology*, 20 (6):597-599
180. Zeng, Y. (Zhongkai 農工大)、Zeng, W. (Zhongkai 農工大)、Zhang, Y. (Zhongkai 農工大)、Ye, W. (ノースカロライナ州立農業研)、Cheng, D. (Zhongkai 農工大)、神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大). Morphological and molecular characteristics of *Parasitodiplogaster religiosae* n. sp. (Nematoda: Diplogastrina) associated with *Ficus religiosa* in China. (新種、*Parasitodiplogaster religiosae* の形態、系統学的特性). PLoS ONE, doi.org/10.1371/journal.pone.0199417
181. 神崎菜摘、Shokoohi, E. (North-West 大学)、Fourie, H. (North-West 大学)、Swart, A. (南アフリカ植物防疫研)、Muller, L. (南アフリカ植物防疫研)、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大). On the morphology and phylogeny of *Robustodorus* Andrassy, 2007 and two 'Aphelenchoides' species (Nematoda: Aphelenchoidinae). (*Robustodorus* 属と2種の *Aphelenchoides* 属線虫の形態と系統に関して). *Nematology*, 20 (7):601-615
182. 神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学). *Acrostichus palmarum* n. sp., a cryptic species separated from *A. rhynchophori* by molecular sequences and hybridization tests. (分子系統と交配試験に基づく、*Acrostichus rhynchophori* の隠蔽種、*Acrostichus palmarum* の新種記載). *Nematology*, 20 (8):751-768
183. 神崎菜摘、Isheng J. Tsai (Academia Sinica)、田中龍聖 (宮崎大)、Vicky L. Hunt (宮崎大)、Dang Liu (Academia Sinica)、津山研二 (東北大)、前田安信 (宮崎大)、生井聡史 (東北大)、熊谷亮平 (東北大)、Alan Tracey (Sanger Institute)、Nancy Holroyd (Sanger Institute)、Stephen R. Doyle (Sanger Institute)、Gavin C. Woodruff (オレゴン大)、村瀬一典 (宮崎大)、北爪弘美 (宮崎大)、Cynthia Chai (CalTech)、Allison Akagi (CalTech)、Oishika Pana (コーネル大)、Huei-Mien Ke (Academia Sinica)、Frank C. Schroeder (コーネル大)、John Wang (Academia Sinica)、Matthew Berriman (Sanger Institute)、Paul W. Sternberg (CalTech)、杉本亜砂子 (東北大)、菊地泰生 (宮崎大). Biology and genome of a newly discovered sibling species of *Caenorhabditis elegans*. (新たに発見された *Caenorhabditis elegans* 近縁種の生態とゲノム). *Nature Communications*, 9:3216
184. Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学)、神崎菜摘. Post card from Albuquerque: Revisiting Massey's book, "Biology and Taxonomy of Nematode Parasites and Associates of Bark Beetles in the United States". (アメリカ国内における昆虫嗜好性線虫の分類、多様性研究の重要性). SON (Society of Nematologists) Annual Meeting (2018)、O-4-1
185. 神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学). Delineation of two *Acrostichus* cryptic species associated with different new world *Rhychophorus* weevils by molecular sequences and hybridization tests. (ハビタットとホストを共有する2種の *Acrostichus* 属隠蔽種線虫の識別). SON (Society of Nematologists) Annual Meeting (2018)、P-25

186. 神崎菜摘、浴野泰甫（鹿児島大・佐賀大）. *Seinura* sp. の生物学的特性に関する追加報告. 日本線虫学会大会、26:O-02
187. 神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大). Diversity and plant pathogenicity of *Bursaphelenchus* and related nematodes in relation to their vector bionomics. (*Bursaphelenchus* 属、及びその近縁属の多様性、植物病原性と媒介昆虫利用様式). *Current Forestry Reports*, 4 (2):85-100, DOI: 10.1007/s40725-018-0074-7
188. Fouladvand, Z.M. (Tarbiat Modares 大学)、神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学)、Pourjam, E. (Tarbiat Modares 大学)、Pedram, M. (Tarbiat Modares 大学). A review on taxonomy and phylogeny of *Tylaphelenchinae* (Aphelenchoidea). (*Tylaphelenchinae* 亜科の分類と系統). *European Society of Nematologists meeting Abstract* (2018)、:55
189. 神崎菜摘、浴野泰甫（鹿児島大・佐賀大）. 菌食、捕食、昆虫寄生：食性の多様化に伴う構造的変化. 昆虫病理研究会シンポジウム要旨集、13:24-25
190. KOYAMA Asuka (小山明日香)、EGAWA Chika (江川知花・農研機構)、TAKI Hisatomo (滝久智)、YASUDA Mika (安田美香・バードライフ・東京)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、IDE Tatsuya (井手竜也・国立科学博物館)、OKABE Kimiko (岡部貴美子). Non-native plants are a seasonal pollen source for native honeybees in suburban ecosystems (半都市域において外来植物は在来ミツバチの花粉資源として季節依存的役割を果たす). *Urban Ecosystems*, 21 (6):1113-1122
191. 神崎菜摘. 森林における外来線虫種. 樹木医学研究、22 (4):199-205
192. 神崎菜摘. 線虫の寿命. 森林総合研究所関西支所研究情報、129:4
193. Foley, J.R. IV. (フロリダ大)、Chouvenc, T. (フロリダ大)、Giblin-Davis, R. M. (フロリダ大)、Su, N.-Y. (フロリダ大)、神崎菜摘. Phoresy and within-colony transmission of nematodes associated with alates of subterranean termites (Isoptera: Rhinotermitidae). (地下性シロアリ便乗線虫の分散とコロニー内拡散). *Environmental Entomology*, 47 (5):1107-1116
194. Golhasan, B. (テヘラン大)、Heydari, R. (テヘラン大)、Esmaeli, M. (テヘラン大)、神崎菜摘. Molecular and morphological characterization of *Aphelenchoides kheirii* n. sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) isolated from *Pinus nigra* in north-western Iran. (イラン北西部の *Pinus nigra* 枯死木から検出された線虫、*Aphelenchoides kheirii* の新種記載). *Nematology*, 20 (9):877-888
195. 神崎菜摘、浴野泰甫（鹿児島大・佐賀大）、井手竜也（国立科学博物館）、升屋勇人、出川洋介（筑波大）. Three new species of *parasitaphelenchids*, *Parasitaphelenchus frontalis* n. sp., *P. costati* n. sp., and *Bursaphelenchus hirsutae* n. sp. (Nematoda: Aphelenchoididae), isolated from bark beetles from Japan. (日本国内でキクイムシ類から分離された3種の *Parasitaphelenchinae* 亜科線虫種、*Parasitaphelenchus frontalis*, *P. costati*, *Bursaphelenchus hirsutae* の新種記載). *Nematology*, 20 (10):957-1005
196. Yoshida, K. (マックスプランク発生生物学研究所)、Herrmann, M. (マックスプランク発生生物学研究所)、神崎菜摘、Weiler, C. (マックスプランク発生生物学研究所)、Roedelsperger, C. (マックスプランク発生生物学研究所)、Sommer, R. (マックスプランク発生生物学研究所). Two new species of *Pristionchus* (Nematoda: Diplogastridae) from Taiwan and the definition of the *pacificus* species-complex *sensu stricto*. (台湾から分離された狭義の *pacificus* グループに属する *Pristionchus* 属2新種の記載). *Journal of Nematology*, 50 (3):355-368

197. 神崎菜摘、Herrmann, M. (マックスプランク発生生物学研究所)、Yoshida, K. (マックスプランク発生生物学研究所)、Weiler, C. (マックスプランク発生生物学研究所)、Rodelsperger, C. (マックスプランク発生生物学研究所)、Sommer, R.J. (マックスプランク発生生物学研究所). Samplings of millipedes in Japan and scarab beetles in Hongkong result in five new species of *Pristionchus* (Nematoda: Diplogastridae). (日本と香港におけるヤスデ類、クワガタムシ類の採集で得られた *Pristionchus* 属 5 新種の記載). *Journal of Nematology*, 50 (4):587-610
198. 神崎菜摘、市原優、相川拓也、浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、升屋勇人. *Litylenchus crenatae* n. sp. (Tylenchomorpha: Anguinidae) a leaf gall nematode parasitising *Fagus crenata* Blume. (ブナの葉に寄生、ゴール形成する新規植物病原線虫、*Litylenchus crenatae* の記載). *Nematology*, 21 (1):5-22
199. Griffith, R. (トリニダードココナツ研究所)、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大)、Koshy, P.K. (インド中央農作物研究所)、Sosamma, V.K. (インド中央農作物研究所)、神崎菜摘. Nematode parasites of coconut and other palms (ココナツとその他ヤシ類の線虫病害). *Plant Parasitic Nematodes in Subtropical and Tropical Agriculture* (CABI 発行、888 頁)、504-535
200. MATSUNAGA Koji (松永孝治)、AKIBA Mitsuteru (秋庭満輝)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、TOGASHI Katsumi (富樫一巳・東京大学農学部). A simple method for distinguishing *Bursaphelenchus xylophilus*, *B. mucronatus mucronatus*, and *B. m. kolymensis* (Nematoda: Aphelenchoididae) by polymerase chain reaction with specific primers designed based on cytochrome oxidase subunit I genes (チトクロムオキシダーゼサブユニット I 遺伝子に基づく特異的プライマーを用いたポリメラーゼ連鎖反応によるマツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウ 2 亜種 (線形動物門: アフェレンコイデス科) の簡易識別法). *Applied Entomology and Zoology*, 54:147-153
201. 井手竜也 (国立科学博物館)、小山明日香、神崎菜摘、久松正樹 (取手市立山王小学校). 茨城県内で記録されたタマバチ (ハチ目: タマバチ科) による虫えい. 茨城県自然博物館研究報告、21:61-68
202. 秋庭満輝、神崎菜摘、石濱宣夫 (道総研林試)、小野寺賢介 (道総研林試)、徳田佐和子 (道総研林試). 北海道の *Monochamus* 属カミキリ 2 種の随伴線虫. *Nematological Research*, 48:79
203. 秋庭満輝、神崎菜摘、安藤裕萌、鳥居正人 (森林総研 PD). モミとクロマツに対する *Bursaphelenchus firmae* の接種試験. 日本森林学会大会学術講演集、130:233
204. 神崎菜摘、浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、升屋勇人. *Seinura caverna* n. sp. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae) an androdioecious species isolated from bat guano in a calcareous cave (鍾乳洞のコムリグアナから検出された雌雄同体線虫の新種、*Seinura caverna*). *Nematology*, 21 (2):207-225, DOI: 10.1163/15685411-00003207
205. Mirzaie Fouladvand Z. (Tarbiat Modares 大学)、Pourjam, E. (Tarbiat Modares 大学)、神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学)、Pedram, M. (Tarbiat Modares 大学). Description of *Basilaphelenchus brevicaudatus* n. sp. (Aphelenchoidea, Tylyphelenchinae) from a dead forest tree in northern Iran (イラン北部の枯死木から分離された線虫、*Basilaphelenchus brevicaudatus* の新種記載). *Nematology*, 21 (2):147-158, DOI: 10.1163/15685411-00003203
206. Mirzaie Fouladvand, Z. (Tarbiat Modares 大学)、Pourjam, E. (Tarbiat Modares 大学)、神崎菜摘、Giblin-Davis, R.M. (フロリダ大学)、Pedram, M. (Tarbiat Modares 大学). *Basilaphelenchus gorganensis* n. sp. (Aphelenchoidea, Tylyphelenchinae) from wood from northern Iran (イランの枯死材から検出された線虫、*Basilaphelenchus gorganensis* の新種記載). *Forest Pathology*, 2019: e12490. DOI: 10.1111/efp.12490
207. 神崎菜摘、市原優、相川拓也、浴野泰甫 (鹿児島大・佐賀大)、升屋勇人. ブナ葉ぶくれ線虫、*Litylenchus crenatae* の分類学的所属. 日本森林学会大会講演要旨、130:M6

208. 神崎菜摘、浴野泰甫（鹿児島大・佐賀大）. 捕食性線虫、*Seinura caverna* のマツノザイセンチュウ摂食. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨、63:PG263
209. 田中克（クロックミクス）、鹿島誠（龍谷大）、横井寿郎、神崎菜摘、永野惇（龍谷大）. マツノザイセンチュウからの簡便かつ効率的な RNA 抽出手法. 日本線虫学会大会講演要旨集、26:89
210. TANAKA Ryusei（田中龍聖・宮崎大学）、KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、TAKANASHI Takuma（高梨琢磨）. Behavioral responses to vibrations in two *Caenorhabditis* nematodes（*Caenorhabditis* 線虫 2 種の振動に対する行動反応）. Annual Meeting of the Society for Bioacoustics、5:16
211. 古澤仁美、八代田千鶴、横田勉（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）、高橋一英（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）. イオンメーターによる土壌水中の硝酸態窒素測定の有効性の検討. 日本緑化工学会誌、44:131-134
212. 古澤仁美、八代田千鶴、横田勉（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）、高橋一英（長崎県食品衛生協会食品環境検査センター）. シカ捕獲個体埋設の時期と深度が土壌水の特性に及ぼす影響. 「野生生物と社会」学会九州大会大会プログラム・講演要旨集、24:94
213. 八代田千鶴. 森林の変遷～これまでとこれから. ワイルドライフフォーラム、22（2）:4-5
214. 八代田千鶴、竹内正彦（農研機構）. 人か技術か？ 鳥獣被害対策の主役. 哺乳類科学、58（1）:110
215. 八代田千鶴. 「森林鳥獣研究最近の動向」－第 129 回日本森林学会大会より－. 森林防疫、727:22-26
216. YAYOTA Chizuru（八代田千鶴）、FURUSAWA Hitomi（古澤仁美）. Impact of buried depths of sika deer carcass on soil water chemistry and appearance frequency of animal species at logging area in Tokushima, Japan（シカ捕獲個体の埋設深度が土壌水特性および出没動物種に及ぼす影響）. EAFES（East Asian Federation of Ecological Societies）International Congress、8:164
217. YAYOTA Chizuru（八代田千鶴）、OKA Teruki（岡輝樹）、KOIZUMI Toru（小泉透）. Camera trap as a tool for surveying the effect of culling on sika deer population in the forest at Izu Peninsula, Japan（静岡県伊豆半島におけるカメラトラップを用いたシカ個体数低減効果の検証）. International Deer Biology Congress、9:18
218. 八代田千鶴、中村充博、岡輝樹. ニホンジカの生息密度が他の動物種の生息状況に及ぼす影響. 日本哺乳類学会大会（2018）、166
219. 八代田千鶴、古澤仁美. ニホンジカの複数頭埋設が土壌水成分に及ぼす影響. 「野生生物と社会」学会大会、24:96
220. 八代田千鶴、鈴木正嗣（岐阜大学）. 人口縮小化時代における農山村の行方. 「野生生物と社会」学会大会、24:54
221. 八代田千鶴、岡輝樹. 中国地方におけるニホンジカ分布拡大最前線の把握. 日本森林学会講演要旨集、130
222. 柳澤賢一（長野県林業総合センター）、八代田千鶴. 長野県塩尻市東山における自動撮影カメラを用いたニホンジカの生息状況調査. 日本森林学会講演要旨集、130:285（P2-220）
223. 八代田千鶴. 思ったより長い？ 短い？ 森の生き物の意外な寿命 第 4 回 哺乳類の寿命. 関西支所研究情報、131:4

224. 衣浦晴生、城塚可奈子（大阪府立環境農林水産総合研究所）、山本優一（大阪府立環境農林水産総合研究所）、所雅彦、加賀谷悦子. クビアカツヤカミキリの成虫ルアートラップによる誘引試験. 樹木医学研究、22（2）:109-110
225. 衣浦晴生、伊藤健太郎（大阪市大・植物園）、田中秀樹（大阪市大・植物園）、植松千代美（大阪市大・植物園）。ユリノキの枯死と関連する昆虫類. 樹木医学会大会講演要旨集、23:P-12
226. 衣浦晴生、伊藤健太郎（大阪市大・植物園）、田中秀樹（大阪市大・植物園）、植松千代美（大阪市大・植物園）。ユリノキの枯死とヨシブエナガキクイムシ. 樹木医学研究、23（1）:44-45
227. 衣浦晴生. クビアカツヤカミキリによるバラ科樹木の被害. 森林総合研究所関西支所研究情報、131:2-3
228. 衣浦晴生、升屋勇人. ヨシブエナガキクイムシから分離された菌類および接種試験. 日本森林学会大会学術講演集、130:280
229. 衣浦晴生、城塚可奈子（大阪府立環境農林水産総合研究所）、山本優一（大阪府立環境農林水産総合研究所）、所雅彦、加賀谷悦子. 関西におけるクビアカツヤカミキリの被害. 森林防疫、67:221-223
230. 小南裕志、深澤遊（東北大学）、高木正博（宮崎大学）、松倉君予（東北大学）、田中延亮（東京大学）、鈴木智之（東京大学）、小林真（北海道大学）、竹本周平（東京大学）、衣浦晴生、上村真由子（日本大学）、門脇浩明（京都大学）、宮崎怜（横浜国立大学）、山下聡（徳島大学）、潮雅之（京都大学）、岡野邦宏（秋田県立大学）。ナラ枯れ枯死木の分解 CO2 放出量の広域環境応答. 日本生態学会大会講演要旨集、66:B2-08
231. 深澤遊（東北大学）、小南裕志、高木正博（宮崎大学）、松倉君予（東北大学）、田中延亮（東京大学）、鈴木智之（東京大学）、小林真（北海道大学）、竹本周平（東京大学）、衣浦晴生、上村真由子（日本大学）、門脇浩明（京都大学）、宮崎怜（横浜国立大学）、山下聡（徳島大学）、潮雅之（京都大学）、岡野邦宏（秋田県立大学）。コナラ枯死木の分解過程にナラ枯れが与える影響. 日本生態学会大会講演要旨集、66:B2-07
232. 濱口京子. クロヤマアリの台所事情. 森林総合研究所関西支所研究情報、129:3
233. 濱口京子、高原隆子（森林総研非常勤職員）。クロナガアリの活動シーズンについて. 日本蟻類研究会大会講演要旨集、61:9
234. 濱口京子、後藤秀章. PCR-RFLP 法によるカシノナガキクイムシの国内系統の識別. 森林防疫、68:15-20
235. 濱口京子、後藤秀章、升屋勇人、鎌田直人（東大・演習林）。南アジアから日本にかけて採集されたカシノナガキクイムシの分子系統解析. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、63:43
236. 齋藤和彦. 書評 仲間勇栄著『蔡温と林政八書の世界』. 林業経済、71（2）:22-25
237. 安部哲人、工藤孝美（沖縄県在住）、齋藤和彦. やんばるの森林構造及び種組成にみる施業の影響. 亜熱帯森林・林業研究発表会（平成 30 年度）、1
238. 安部哲人、齋藤和彦. やんばるの送粉系ネットワークと土地利用の影響. 日本植物学会大会講演要旨集、82:231
239. 安部哲人、阿部真、工藤孝美（沖縄県在住）、齋藤和彦. やんばるの森の生物種多様性に及ぼす森林施業の影響とイスノキの指標性. 九州森林学会大会講演要旨集、74:41
240. 安部哲人、阿部真、齋藤和彦. やんばるの森の生物多様性と森林施業. 森林科学、84:8-10
241. ABE Tetsuto（安部哲人）、SAITO Kazuhiko（齋藤和彦）。Effects of forestry and alien species on pollination networks in Yanbaru（Okinawa Island）（沖縄やんばるの送粉系ネットワークにおける林業と外来種の効果）。Proceedings of the Taiwan-Japan Ecology Workshop、6:61

242. 齋藤和彦. LiDAR DEM から作成した沖縄島北部のCS立体図の活用. 亜熱帯森林・林業研究会定期総会・研究発表会(平成30年度)、8
243. 齋藤和彦. 地域内の森林調査のための手法ー境界調査における空中写真の活用ー. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集(平成30年度)、12
244. ABE Shin (阿部真)、KOTAKA Nobuhiko (小高信彦)、TAKASHIMA Atsushi (高嶋敦史・琉球大学農学部)、ABE Tetsuto (安部哲人)、SAITO Kazuhiko (齋藤和彦)、Masaki Takashi (正木隆). Host selection and distribution of *Dendrobium okinawense*, an endangered epiphytic orchid in Yambaru, Japan. (絶滅が危惧されるやんばるの着生ラン・オキナワセッコクの着生木選択と分布). *Ecological Research*, 33 (5):1069-1073
245. 安部哲人、齋藤和彦. やんばるの送粉系における外来セイヨウミツバチの現状. 日本生態学会大会講演要旨集、66:B01-01
246. 阿部真、阿部篤志(沖縄美ら島財団総合研究センター)、齋藤和彦、高嶋敦史(琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター)、安部哲人、高橋興明、宮本麻子、小高信彦. 絶滅危惧種オキナワセッコクの自生地と森林管理. 日本森林学会大会学術講演集、130:274 (P2-176)
247. 安部哲人、工藤孝美(沖縄県在住)、齋藤和彦. 施業履歴がやんばるの森林植物群集の多様性及び種組成に与える影響. 九州森林研究、72
248. 高橋興明、齋藤和彦. 常緑広葉樹林における航空機LiDARデータの特性と処理について. 九州森林学会大会研究発表プログラム、74:210
249. 齋藤和彦. 森林境界調査のために空中写真を活用する. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、14-15
250. 齋藤和彦. 地域内の森林調査のための手法ー境界調査における空中写真の活用ー. 広葉樹の利用と森林再生についてのワークショップと現地検討会 in 東近江要旨集、23
251. 細田和男、西園朋広、佐野真、古家直行、小谷英司、田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、家原敏郎、北原文章、近藤洋史、金森匡彦(日本森林技術協会)、大萱直花(日本森林技術協会)、古田朝子(日本森林技術協会). 低コストのデジタル空中写真で林分材積を高精度に推定する. 森林総合研究所研究成果選集(平成30年版)、22-23
252. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、榎山真司. アカマツ天然林皆伐跡地に植栽したアカマツ・ヒノキ・スギの成長について. 応用森林学会大会研究発表要旨集、69:13
253. 山下尚之、橋本昌司、澤野真治、大曾根陽子(森林総研PD)、鳥山淳平、細田和男、西園朋広、小谷英司、田中邦宏、北原文章、近藤洋史. 機械学習を用いたスギ収穫試験地の成長要因解析. 日本森林学会大会学術講演集、130:145
254. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、榎山真司. アカマツ・ヒノキ・スギ複層林の成長について. 日本森林学会大会学術講演集、130:238
255. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、榎山真司. 奥島山収穫試験地(滋賀県近江八幡市)定期調査報告ーアカマツ天然林皆伐後に植栽されたヒノキ人工林の成長についてー. 森林総合研究所関西支所年報(平成30年版)、36-37
256. 田中邦宏、齋藤和彦、田中真哉、近口貞介、榎山真司. 茗荷淵山ヒノキ人工林収穫試験地(三重県熊野市)定期調査報告ー紀伊半島の温暖多雨な地域におけるヒノキ人工林の成長についてー. 森林総合研究所関西支所年報(平成30年版)、38-39

257. 諏訪鍊平 (JIRCAS)、田中真哉、奥田史郎、家原敏郎、藤原健、細田和男. 広葉樹バイオマスの推定式の開発. 森林総合研究所関西支所公開講演会要旨集 (平成 30 年度)、14
258. 田中真哉. 広葉樹資源はどこにどのくらいあるか?. 中山間地で広葉樹林を循環利用するためのハンドブック、10-11
259. 田中真哉、北原文章、西園朋広. 広葉樹資源はどこにどのくらい蓄積しているか: 衛星データを利用した近畿圏の広域評価. 広葉樹の利用と森林再生についてのワークショップと現地検討会 in 東近江 要旨集、21
260. 古家直行、田中真哉. グローバル森林変化マップの特徴とそれに基づく北海道内の森林変化の動向. 北方森林研究、67:71-74
261. 高橋與明、田中真哉. ドローン画像からの単木樹高推定. 日本森林学会大会講演要旨、130:P2-044

